

大きく変わる学校

明治大付属に、来春入学生から内部推薦

日本学園中学校



日本学園中高は 1885(明治 18)年神田錦町に創設された東京英語学校が前身の、長い歴史と伝統を持つ学校で、吉田茂(第 45・第 48～51 代内閣総理大臣)、岩波茂雄(岩波書店創業者)、横山大観(日本画家)など、多くの著名人を輩出してきました。写真は 1936 年に建設された 1 号館で、国の有形文化財に指定されています。創立以来、男子校を続けてきた同校ですが、創立 141 周年になる 2026 年から共学化、明治大学の付属校となり、校名を「明治大学付属世田谷」に改称することになりました。また、2023 年度中学入学生から明治大学への内部推薦が開始されます。

1. 明治大学系列校化について

日本学園と明治大学の関係は、2012 年に締結された「高大連携事業に関する協定」に始まります。この協定は、日本学園と明治大学和泉キャンパスが、どちらも京王電鉄明大前駅至近に立地していることから、相互の理解を深めるとともに、両校による地域への貢献を目的としたものです。

この協定によって、日本学園の生徒が和泉キャンパスを訪れて活動したり、明治大学の教授による出張講義を日本学園で実施するなどの活動を行ってきました。こうした活動の実績と、日本学園の教育の特色である「創発学」と「NGP」を明治大学が評価し、系列校化が決まりました。

2. 「創発学」と「NGP」

「創発学」とは、「創」で調査・研究・取材・まとめを通して「創造する力」を育み、「発」でそれらを表現・発表する「発信する力」を身につけるプログラムです。林業・漁業・農業体験を踏まえ、「あつき恵教室」でその道のプロにインタビュー、15 年後の自分を想定して、その時に就いていたい職業について論文を執筆し、研究論文として発表します。

「NGP」は「にちがくグローバルプログラム」のことで、グローバルはグローバルとローカルを合わせた言葉です。「NGP」では、日本の文化を

学習し、さらに留学中に現地の文化を学びます。異文化の中で生活・学習することで成長し、グローバルとローカルの両方の視点や感覚を持てるような生徒に育てるプログラムです。まず日本語を土台に、さらに英語力を伸ばしたうえで、オーストラリアでの語学研修やターム留学で異文化を学び、「英語の先」を見据えることができるようになります。

3. 明治大学への内部推薦について

来春の中学校は男子 120 名募集で、この生徒たちが高校に内部進学する 2026 年度に、外部からさらに男女合計で 160 名を高校募集する計画です。内部進学生と高校入学生は混合のクラスで共学にする予定です。この合計 280 名が「明治大学付属世田谷」の 1 期生として 2029 年度に明治大学へ内部進学します。「卒業生のおよそ 7 割(約 200 名)以上が、明治大学へ推薦入学試験によって進学できる教育体制の構築を目指す」としています。

4. 2023 年度入試について

2 月 1 日午前 70 名、3 日午前 30 名、5 日午前 20 名の 3 回、全回 2 科 4 科選択です。出題は従来のパターンを踏襲しますが、各設問は少し難度を上げる予定です。同校によると合格最低点が高くなるが見込まれるため、ケアレスミスに注意するようにとのことです。